

本県教育の現状について

1.	学校設置者の状況	P 1
2.	幼稚園の状況	P 2
3.	小学校の状況(1)(2)	P 3
4.	中学校の状況(1)(2)	P 5
5.	高等学校の状況(1)(2)	P 7
6.	特別支援教育の状況(1)(2)	P 9
7.	教員年齢構成の状況(1)(2)	P 11
8.	学力の状況(1)(2)	P 13
9.	学習意欲・学習習慣の状況	P 15
10.	進学・就職の状況	P 16
11.	いじめ・不登校の状況	P 17
12.	就学援助の状況	P 18
13.	体力・運動能力の状況	P 19
14.	生活習慣の状況	P 20
15.	子どもと地域との関わりの状況	P 21
16.	学校施設耐震化の状況	P 22
17.	社会教育の状況	P 23
18.	スポーツの状況	P 24
19.	文化財の状況	P 25

1. 学校設置者の状況

H30年5月1日現在

〔設置者別園数・学校数〕

(単位：園、校)

区分	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	全日制・定時制 高等学校	特別支援学校
公立	77	202	96	1	37	12
国立	1	1	1	0	0	0
私立	12	0	3	0	10	0
合計	90	203	100	1	47	12

〔設置者別在学者数〕

(単位：人)

区分	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	全日制・定時制 高等学校	特別支援学校
公立	2,835	34,447	16,910	262	14,561	1,017
国立	55	354	417	0	0	0
私立	337	0	269	0	4,029	0
合計	3,227	34,801	17,596	262	18,590	1,017

〔在学者数の設置者別割合〕

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	全日制・定時制 高等学校	特別支援学校
公立	87.9	99.0	96.1	100.0	78.3	100.0
(全国)	(15.5)	(98.2)	(91.8)	(95.4)	(67.5)	(97.4)
国立	1.7	1.0	2.4	0.0	0.0	0.0
(全国)	(0.4)	(0.6)	(0.9)	(4.6)	(0.3)	(2.1)
私立	10.4	0.0	1.5	0.0	21.7	0.0
(全国)	(84.1)	(1.2)	(7.3)	(0.0)	(32.2)	(0.5)

○ 全国平均と比較して「公立」の割合が大きく「私立」の割合が小さい。幼稚園は約73ポイントの大きな差があり、高等学校は約10ポイント、中学校は約5ポイントの差がある。

2. 幼稚園の状況

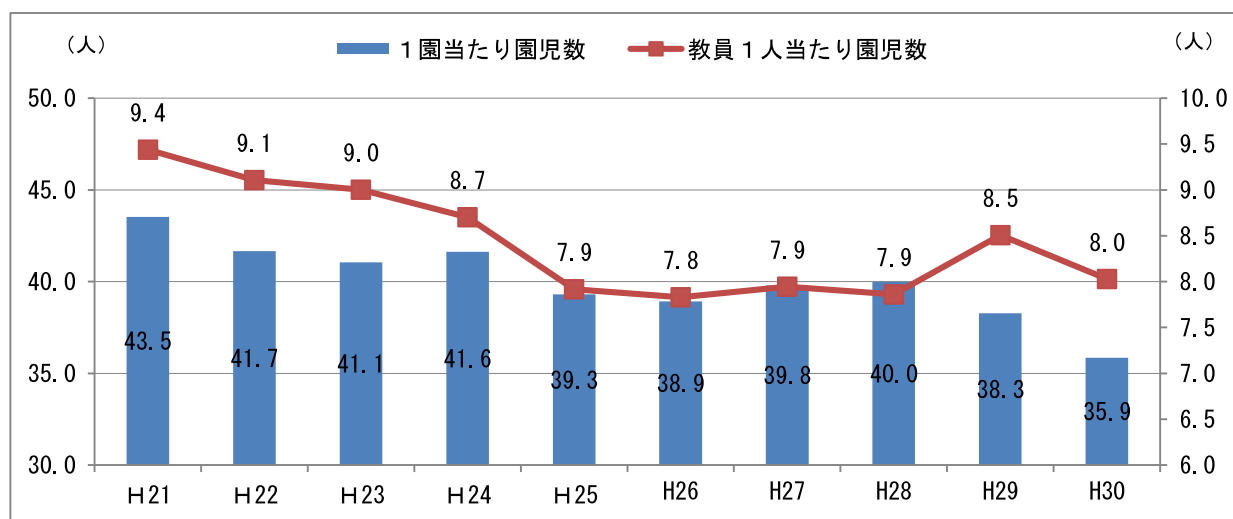
H30年5月1日現在

〔幼稚園の状況（国立・公立・私立合計）〕

（単位：園、人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
園数	121	120	116	111	108	104	95	92	92	90
園児数	5,267	5,000	4,762	4,621	4,244	4,048	3,781	3,679	3,522	3,227
教員数	558	549	529	531	536	517	476	468	414	402
〔参考〕 保育所 入所児童数	19,290	19,747	20,182	20,954	21,241	21,398	21,327	21,414	20,799	20,740

※ 子ども・子育て支援新制度における幼保連携型認定こども園は含まない
出典：保育所 ... 島根県健康福祉部調べ（各年4月1日現在）



〔H30全国平均〕

1園当たり園児数 115.3人、教員1人当たり園児数 12.6人

〔参考〕

保育所数	284
保育所入所児童数	20,740

※ H30.4.1現在
※ 分園6箇所を含む

- 園数、園児数、教員数はいずれも減少傾向。
- 1園当たりの園児数は全国平均の約1/3。
- 教員一人当たりの園児数は全国平均の約6割。

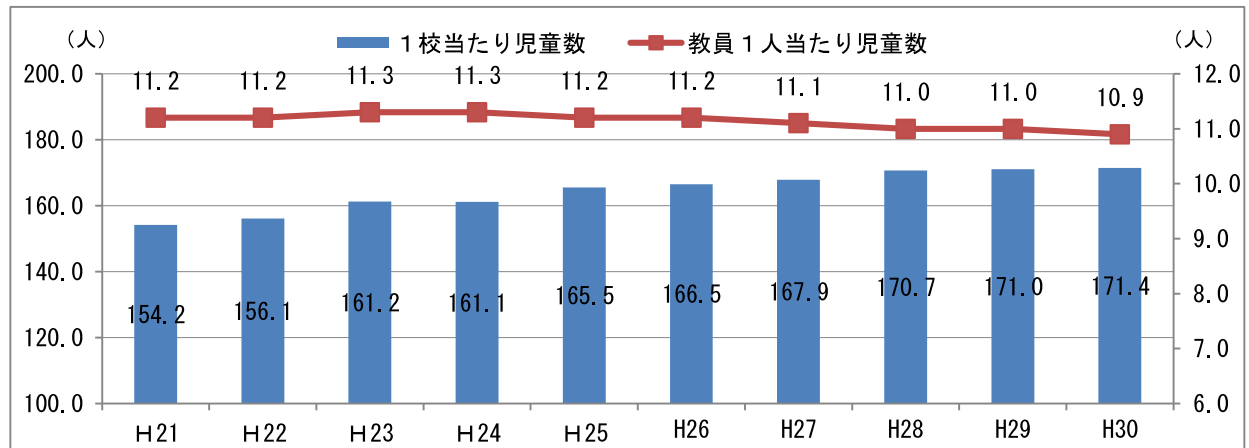
3. 小学校の状況（1）

各年5月1日現在

〔小学校の状況（国立・公立合計）〕

（単位：校、人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
学校数	253	246	235	230	221	216	211	206	204	203
児童数	39,009	38,409	37,887	37,064	36,582	35,958	35,426	35,161	34,894	34,801
教員数	3,496	3,429	3,344	3,279	3,253	3,219	3,199	3,201	3,175	3,191



〔H30全国平均〕

1校当たり児童数 323.1人、教員1人当たり児童数 15.3人

〔編制方式別の学級数（国立・公立合計）〕 島根県

（単位：学級）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
単式学級	1,624	1,605	1,555	1,528	1,513	1,523	1,530	1,517	1,489	1,483
複式学級	185	169	164	153	140	133	123	121	128	129
特別支援学級	333	335	327	321	339	335	340	352	364	377
合計	2,142	2,109	2,046	2,002	1,992	1,991	1,993	1,990	1,981	1,989

- 学校数、児童数、教員数はいずれも減少傾向。
- 1校当たりの児童数は全国平均の約1/2。
- 教員1人当たりの児童数は全国平均の約7割。
- 単式学級、複式学級は減少傾向で、特別支援学級は増加傾向。

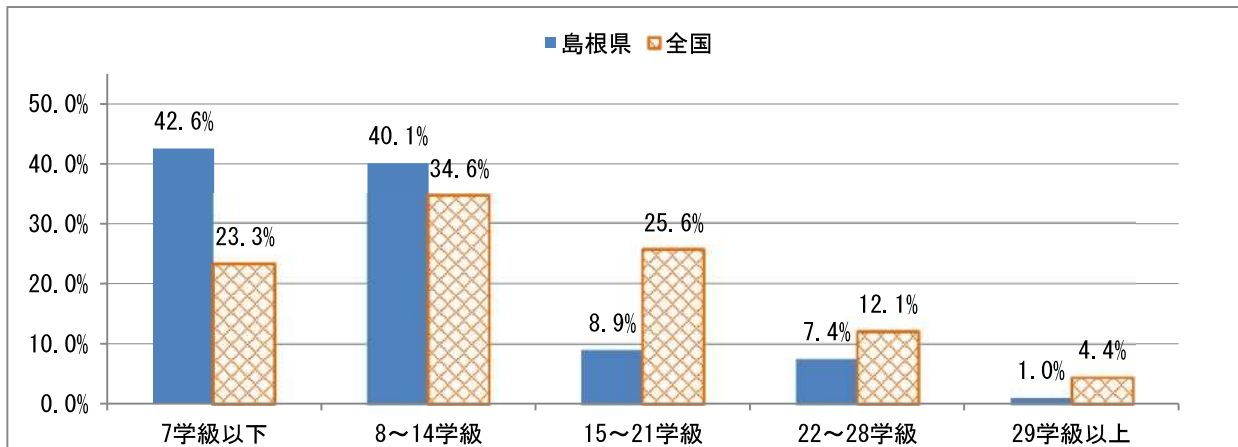
3. 小学校の状況（2）

H30年5月1日現在

〔学級数別の学校数〕

（単位：校）

区分	7学級以下	8～14学級	15～21学級	22～28学級	29学級以上	合計
島根県	86	81	18	15	2	202
全国	4,631	6,887	5,094	2,400	880	19,892



※ 単式・複式・特別支援の学級数合計

〔最少〕出雲・塩津小ほか10校 3学級
 〔最大〕松江・乃木小 35学級
 ※ H30年度、分校を除く

一学級当たりの児童数 (H25)	18.4人
一学級当たりの児童数 (H30)	17.5人

- 学級数別の学校数は、7学級以下の学校数が約4割で、全国平均と比較して小規模校の割合が大きい。
- 5年前と比較して、一学級当たりの児童数は減少傾向。

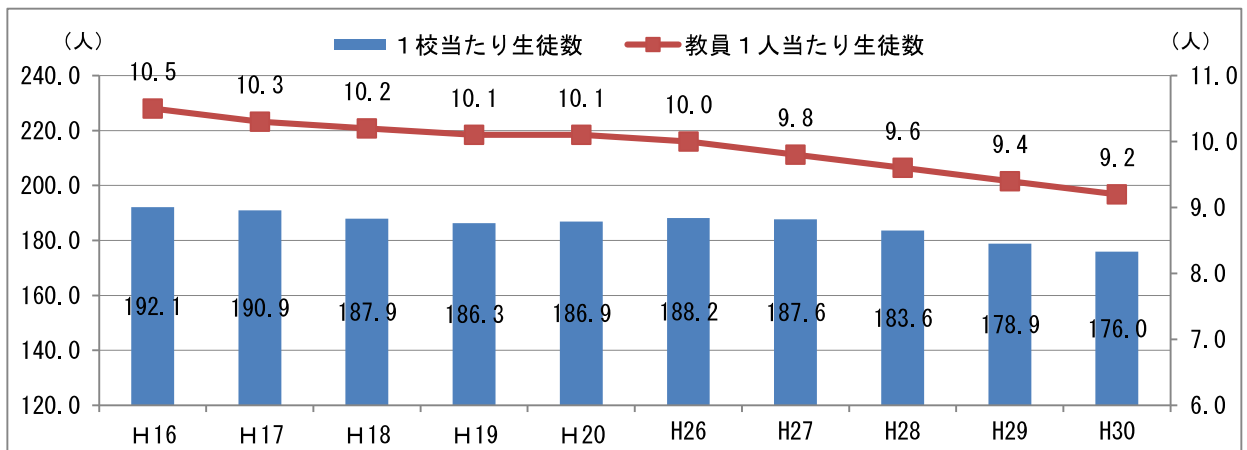
4. 中学校の状況（1）

各年5月1日現在

〔中学校の状況（国立・公立・私立合計）〕

（単位：校、人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
学校数	108	106	106	105	104	103	102	102	102	100
生徒数	20,744	20,238	19,918	19,560	19,440	19,381	19,138	18,727	18,246	17,596
教員数	1,979	1,963	1,954	1,946	1,933	1,940	1,956	1,957	1,934	1,909



〔H30全国平均〕

1校当たり生徒数 316.6人、教員1人当たり生徒数 13.2人

〔編制方式別の学級数（国立・公立・私立合計）〕

（単位：学級）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
単式学級	686	666	659	647	649	665	675	686	675	656
特別支援学級	169	173	171	179	173	170	185	185	174	174
合計	855	839	830	826	822	835	860	871	849	830

- 学校数、生徒数、教員数はいずれも減少傾向。
- 1校当たりの生徒数は全国平均の約6割。
- 教員1人当たりの生徒数は全国平均の約7割。
- 単式学級は減少傾向で、特別支援学級は横ばい傾向。

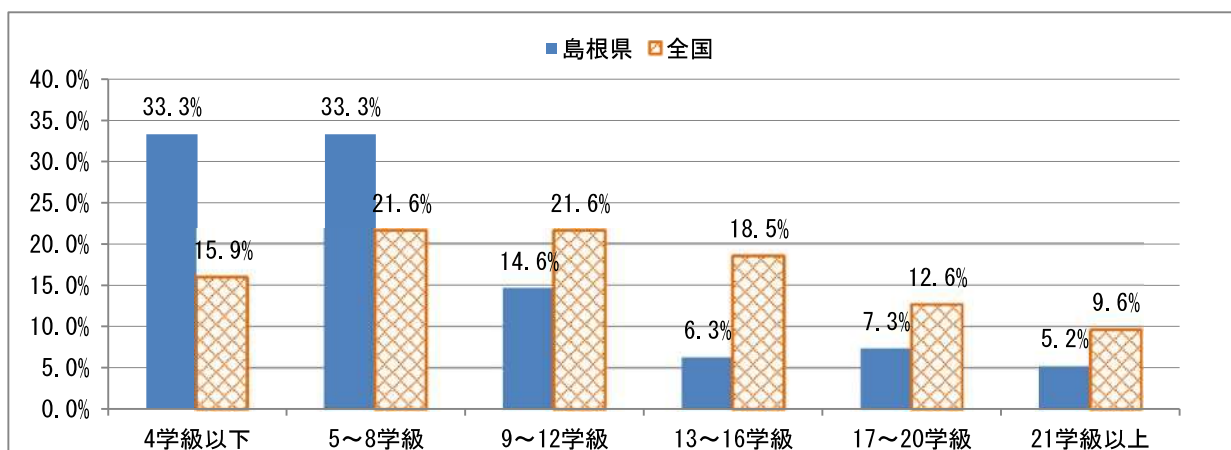
4. 中学校の状況（2）

H30年5月1日現在

〔学級数別の学校数〕

（単位：校）

区 分	4学級以下	5～8学級	9～12学級	13～16学級	17～20学級	21学級以上	合 計
島根県	32	32	14	6	7	5	96
全 国	1,638	2,221	2,221	1,904	1,299	987	10,270



※ 単式・複式・特別支援の学級数合計

〔最少〕 益田・真砂中 2学級

〔最大〕 松江・第一中 33学級

※ H30年度、分校を除く

一学級当たりの生徒数 (H25)	23.6人
一学級当たりの生徒数 (H30)	21.2人

○ 学級数別の学校数は、8学級以下の学校数が約2/3で、全国平均と比較して小規模校の割合が大きい。

○ 5年前と比較して、一学級当たりの生徒数は減少傾向。

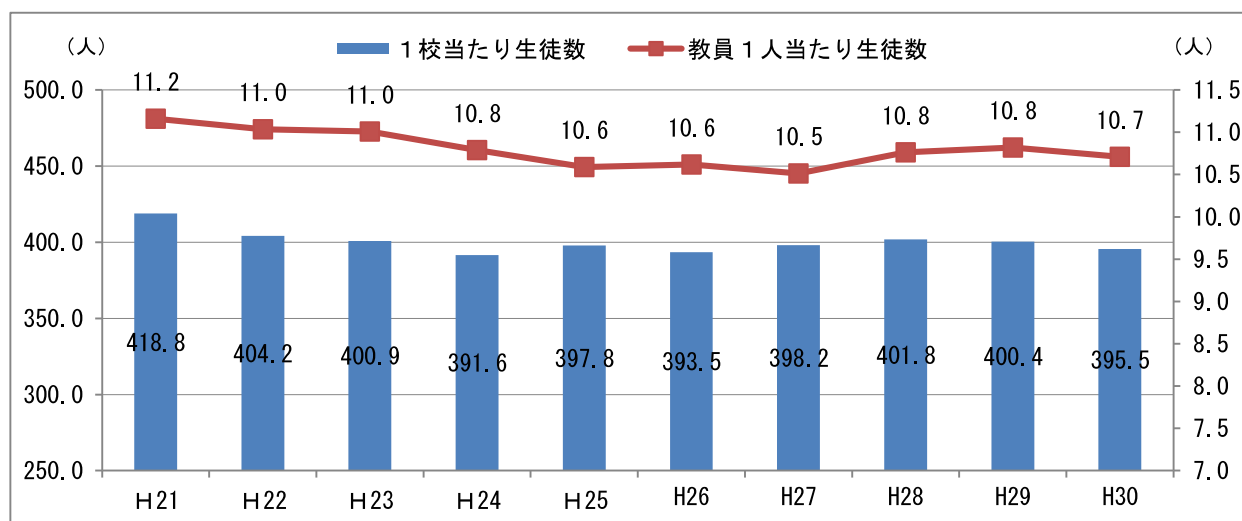
5. 高等学校の状況（1）（公立・私立合計）

各年5月1日現在

〔全日制・定時制高等学校の状況（公立・私立合計）〕

（単位：校、人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
学校数	49	50	50	50	48	48	47	47	47	47
生徒数	20,523	20,208	20,045	19,580	19,093	18,889	18,714	18,886	18,818	18,590
教員数	1,839	1,831	1,821	1,815	1,803	1,779	1,780	1,755	1,739	1,736



〔H30全国平均〕（ただし、国立を含む）

1校当たり生徒数 660.7人、教員1人当たり生徒数 13.9人

- 生徒数の減少は落ち着いてきたが、教員数は減少傾向。
- 1校当たり生徒数は全国平均の約6割。
- 教員1人当たり生徒数は全国平均の約3/4。

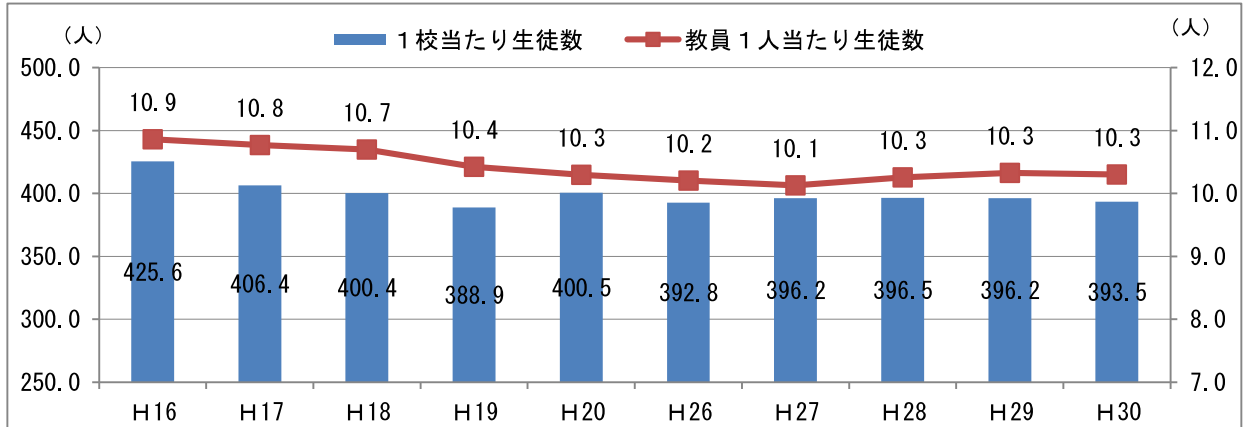
5. 高等学校の状況（2）（公立）

各年5月1日現在

〔全日制・定時制高等学校の状況（公立）〕

（単位：校、人）

区分	H16	H17	H18	H19	H20	H26	H27	H28	H29	H30
学校数	39	40	40	40	38	38	37	37	37	37
生徒数	16,597	16,256	16,017	15,557	15,220	14,925	14,660	14,670	14,659	14,561
教員数	1,528	1,509	1,497	1,492	1,478	1,462	1,447	1,430	1,419	1,413



〔H30全国平均〕

1校当たり生徒数 613.9人、教員1人当たり生徒数 12.9人

〔全日制高等学校（公立）の学科別生徒数〕

（単位：人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
普通科・理数科他（※1）	10,205	9,944	9,800	9,463	9,288	9,156	9,082	9,077	8,990	8,838
専門科（※2）	4,783	4,654	4,581	4,537	4,428	4,324	4,209	4,220	4,268	4,309
総合学科	1,197	1,201	1,186	1,127	1,107	1,062	1,030	1,043	1,047	1,056
合計	16,185	15,799	15,567	15,127	14,823	14,542	14,321	14,340	14,305	14,203

※1 普通科、理数科の他に、英語科、体育科、国際文化観光科を含む。

※2 専門科には、工業系学科、商業系学科、農業系学科、水産系学科を集計。

- 生徒数の減少は落ち着いてきたが、教員数はやや減少傾向。
- 1校当たり生徒数は全国平均の6割強。
- 教員1人当たり生徒数は全国平均の8割弱。
- 全日制(公立)の学科別生徒数は、普通科が6割強、専門科が約3割、総合学科が1割弱の割合。

6. 特別支援教育の状況（１）（特別支援学級）

〔小学校・障がい種別学級数（国立・公立合計）〕

各年5月1日現在（単位：学級）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H21
知的障がい	166	161	157	154	151	147	152	155	150	147	▲ 19
自閉症・ 情緒障がい	123	127	125	120	133	133	136	144	154	163	40
肢体不自由	16	17	18	15	15	17	15	12	14	22	6
病弱	15	18	13	12	16	16	14	16	21	19	4
難聴	8	9	9	13	17	14	12	14	12	14	6
弱視	4	2	3	5	6	7	8	10	9	10	6
院内	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	0
合計	333	335	327	321	339	335	339	352	361	376	43

〔小学校・障がい種別児童数（国立・公立合計）〕

（単位：人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H21
知的障がい	336	346	351	354	352	360	368	396	388	411	75
自閉症・ 情緒障がい	214	234	248	242	263	263	296	336	395	500	286
肢体不自由	18	19	19	16	17	19	17	16	17	26	8
病弱	18	18	13	12	17	17	15	19	24	24	6
難聴	9	11	11	15	19	17	15	16	14	17	8
弱視	4	2	3	6	6	7	8	10	9	10	6
院内	1	2	4	3	2	3	6	3	1	3	2
合計	600	632	649	648	676	686	725	796	848	991	391

〔中学校・障がい種別学級数（国立・公立・私立合計）〕

（単位：学級）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H21
知的障がい	80	82	78	82	81	75	78	75	71	71	▲ 9
自閉症・ 情緒障がい	66	68	65	76	72	73	80	81	81	80	14
肢体不自由	8	8	6	5	3	4	5	6	7	6	▲ 2
病弱	8	9	16	11	10	9	12	15	8	6	▲ 2
難聴	3	3	3	3	6	8	9	7	4	8	5
弱視	3	2	1	1	0	0	0	0	0	3	0
院内	1	1	2	1	1	1	1	1	1	0	▲ 1
合計	169	173	171	179	173	170	185	185	172	174	5

〔中学校・障がい種別生徒数（国立・公立・私立合計）〕

（単位：人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H21
知的障がい	212	205	231	219	209	215	202	213	197	214	2
自閉症・ 情緒障がい	141	139	154	180	191	206	230	230	235	231	90
肢体不自由	8	8	6	7	6	5	5	8	8	6	▲ 2
病弱	8	10	16	12	10	9	12	17	10	6	▲ 2
難聴	5	4	3	3	6	8	9	7	5	9	4
弱視	3	2	1	1	0	0	0	0	0	3	0
院内	2	1	2	1	1	1	1	1	1	0	▲ 2
合計	379	369	413	423	423	444	459	476	456	469	90

○ 特別支援学級の障がい種別では、「自閉症・情緒障がい」の学級数及び児童生徒数、「知的障がい」の児童数の増加が大きい。

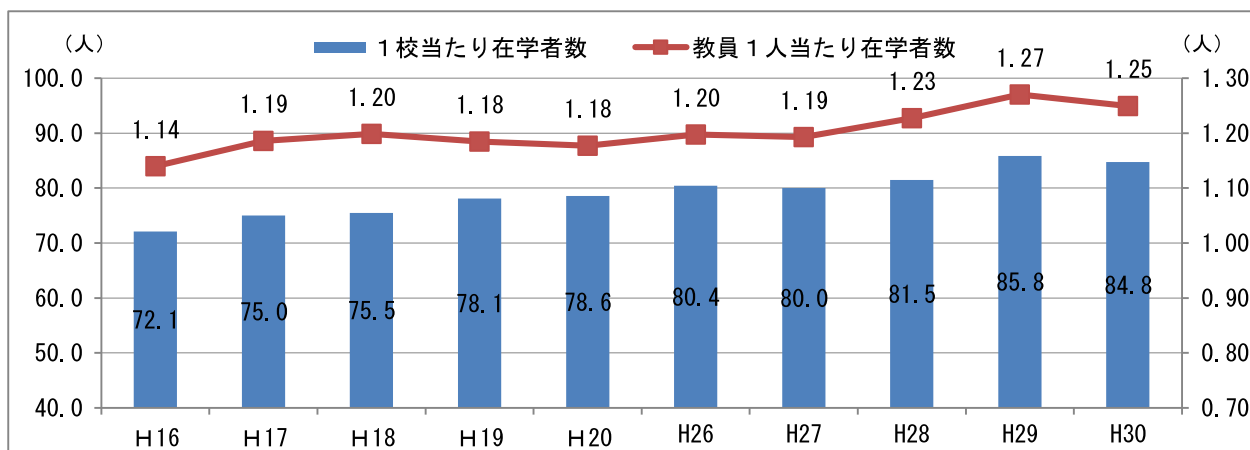
6. 特別支援教育の状況（2）（特別支援学校）

各年5月1日現在

〔特別支援学校の状況〕

（単位：校、人）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H21	
学校数	視覚障がい	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
	聴覚障がい	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	
	知的障がい	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	
	肢体不自由	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	
	病弱	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
	合計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	0
在学者数	視覚障がい	25	26	28	23	24	22	19	14	13	16	▲ 9
	聴覚障がい	47	49	43	40	38	39	38	39	39	41	▲ 6
	知的障がい	649	681	690	727	728	751	759	790	837	816	167
	肢体不自由	91	95	95	95	97	93	98	95	94	88	▲ 3
	病弱	53	49	50	52	56	60	46	40	47	56	3
	合計	865	900	906	937	943	965	960	978	1,030	1,017	152
教員数	視覚障がい	42	43	42	44	44	42	40	37	38	40	▲ 2
	聴覚障がい	77	75	79	79	80	84	79	80	78	80	3
	知的障がい	462	469	462	494	498	503	510	510	521	520	58
	肢体不自由	124	123	120	119	120	120	117	114	119	118	▲ 6
	病弱	54	49	53	55	59	57	59	56	55	56	2
	合計	759	759	756	791	801	806	805	797	811	814	55

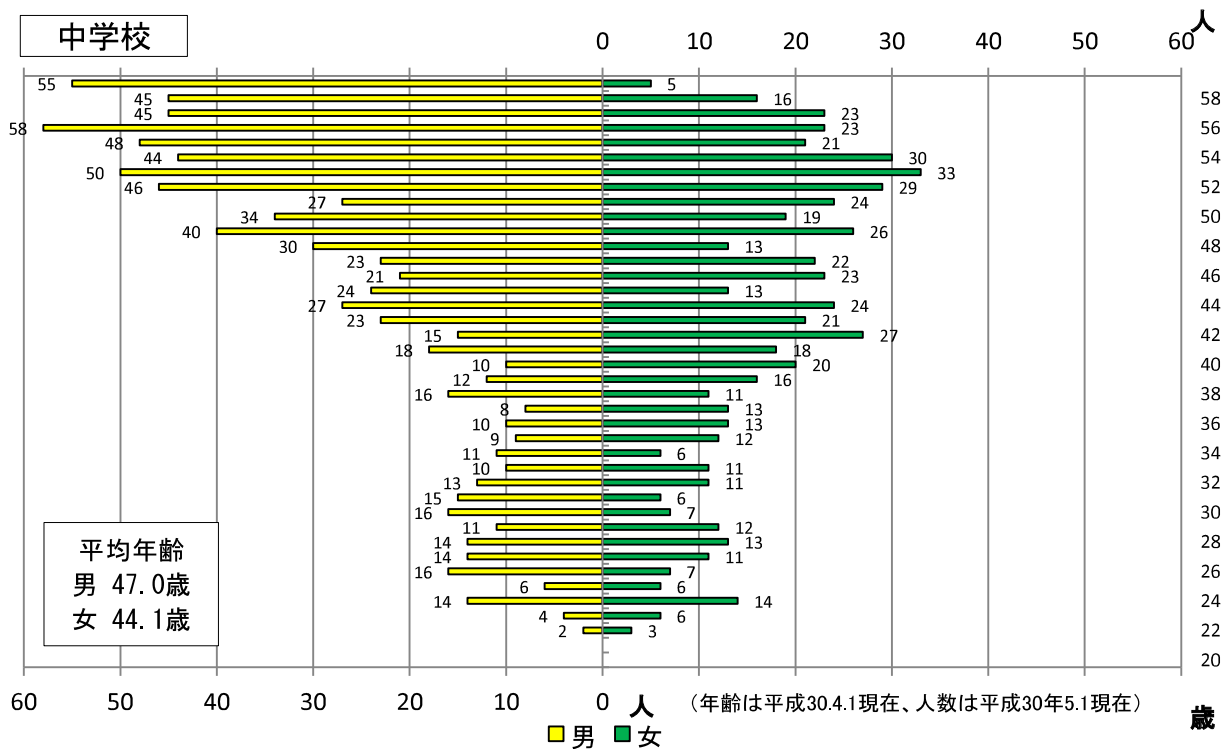
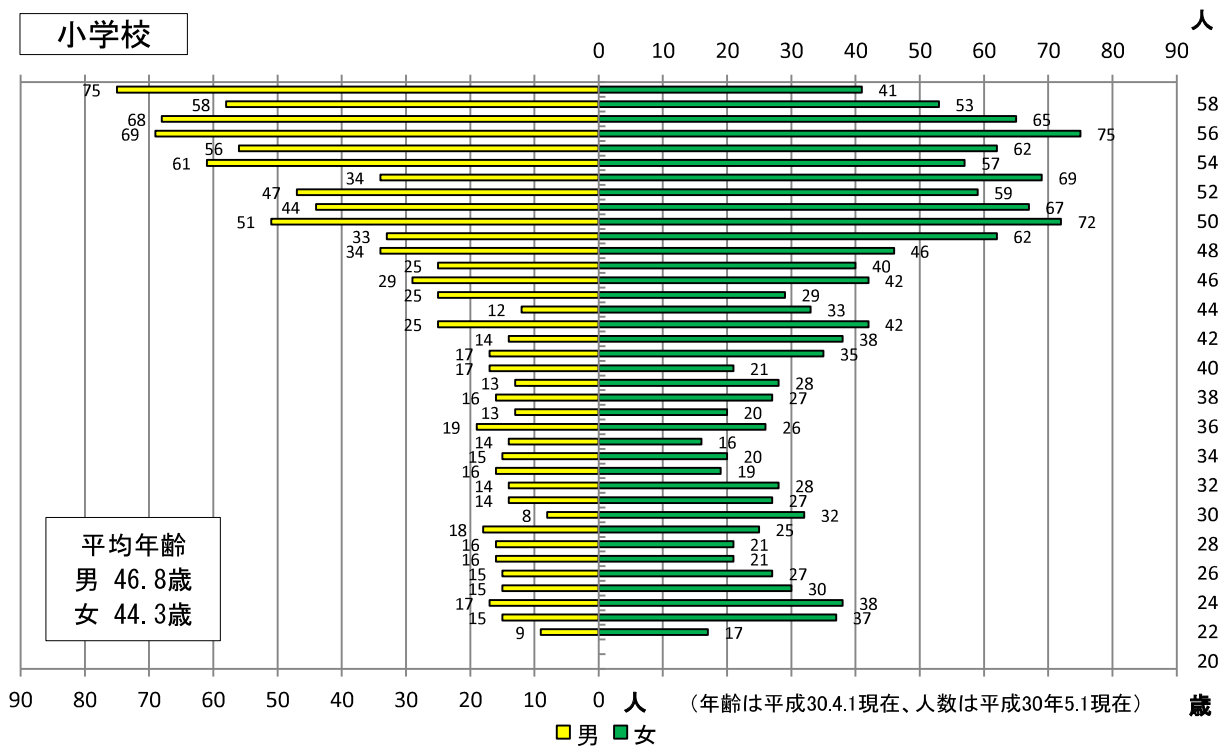


〔H30全国平均〕

1校当たり在学者数 125.7人、教員1人当たり在学者数 1.69

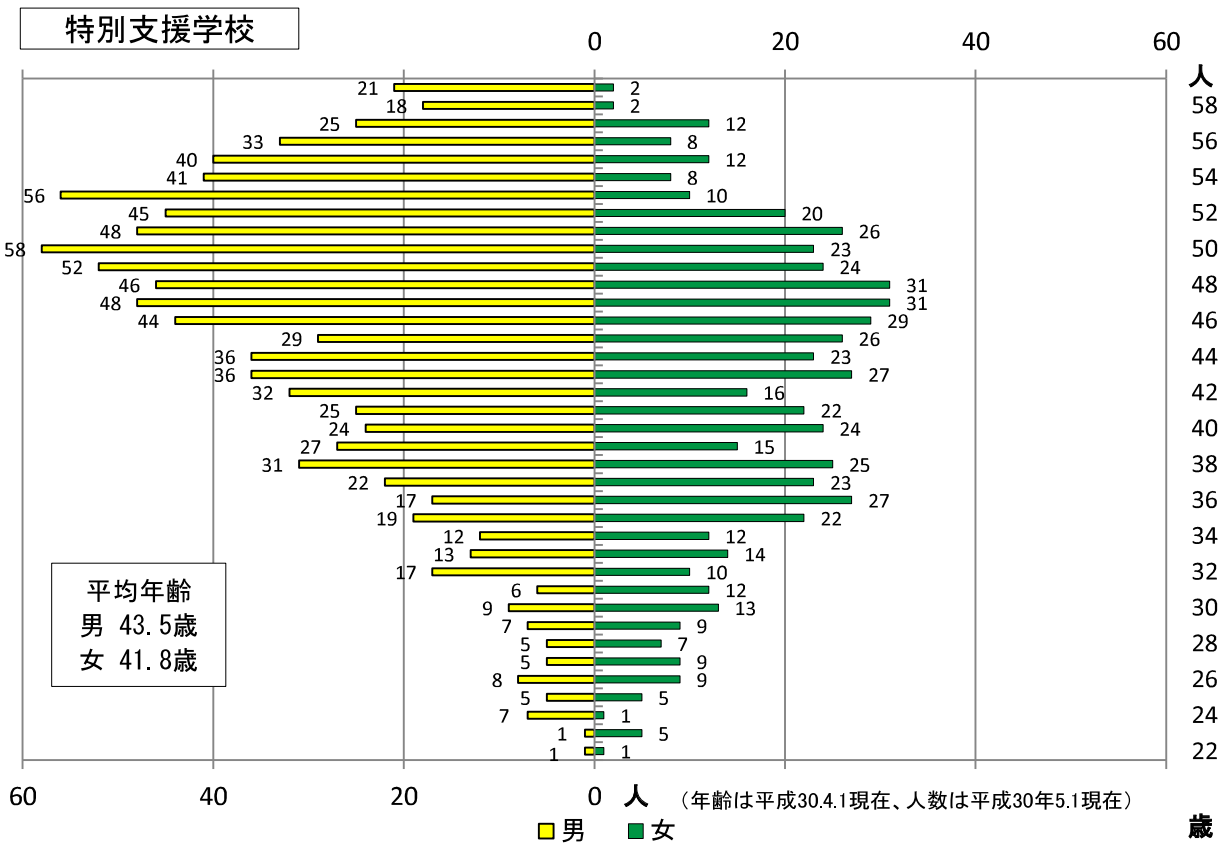
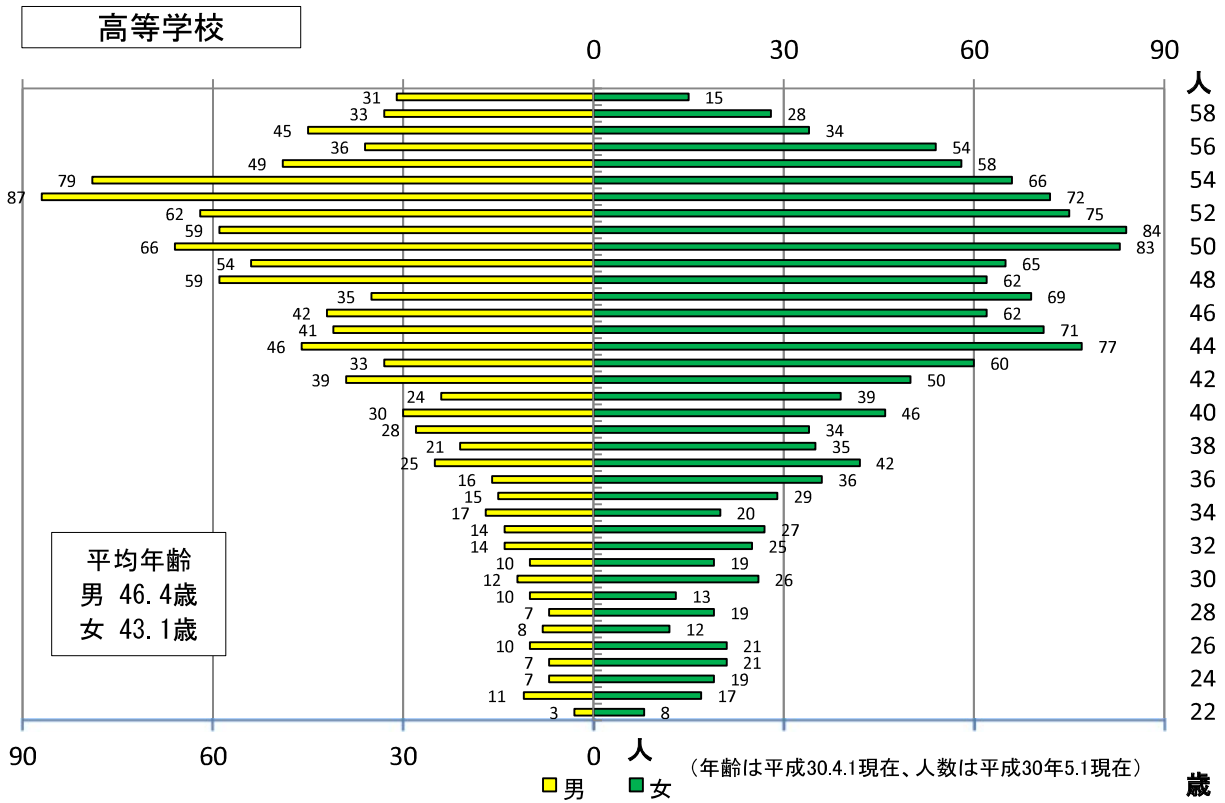
- 学校数は同数で推移。在学者数、教員数は増加傾向。障がい種別では「知的障がい」の増加が大きい。
- 1校当たり在学者数は全国平均の7割弱。
- 教員1人当たり在学者数は全国平均の7割強。

7. 教員年齢構成の状況（1）



- 小学校は、男女ともに50歳代の割合が突出して大きい。
- 中学校は、特に男性で50歳代の割合が突出して大きい。

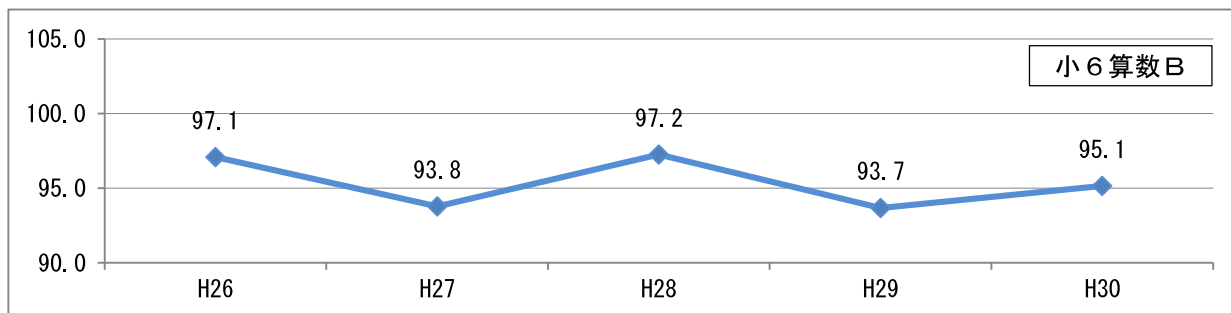
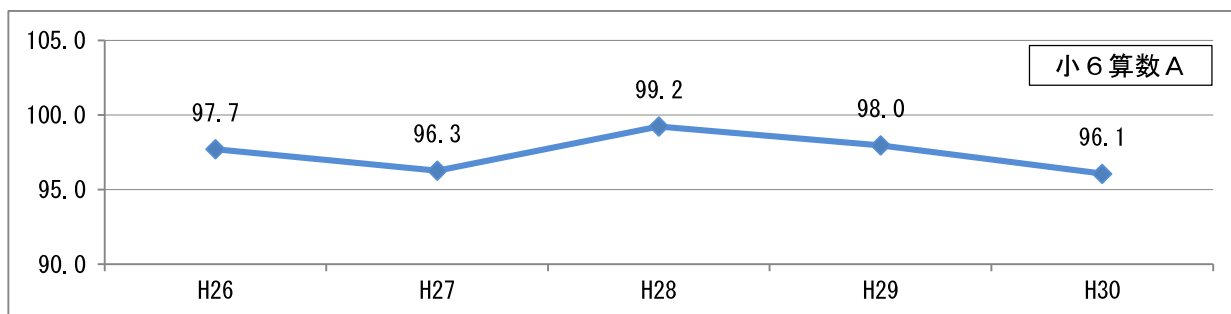
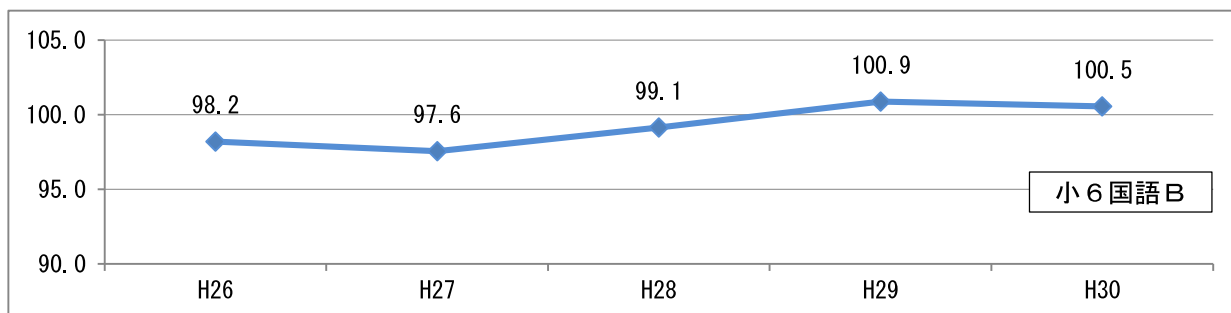
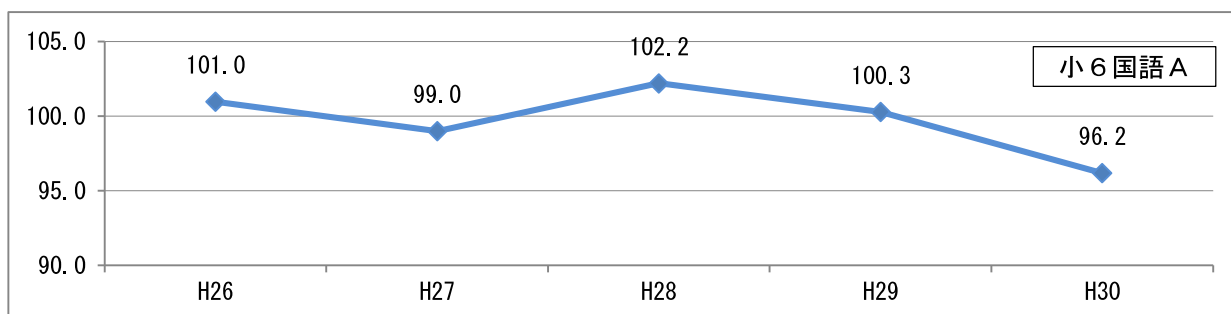
7. 教員年齢構成の状況（2）



- 高等学校は、男性で40歳代後半～50歳代の割合が大きい。
- 特別支援学校は、女性で40歳代の割合が大きい。

8. 学力の状況（1）（小学6年生）

「全国学力・学習状況調査」平均正答率
 （全国の平均正答率を100としたときの本県の値）

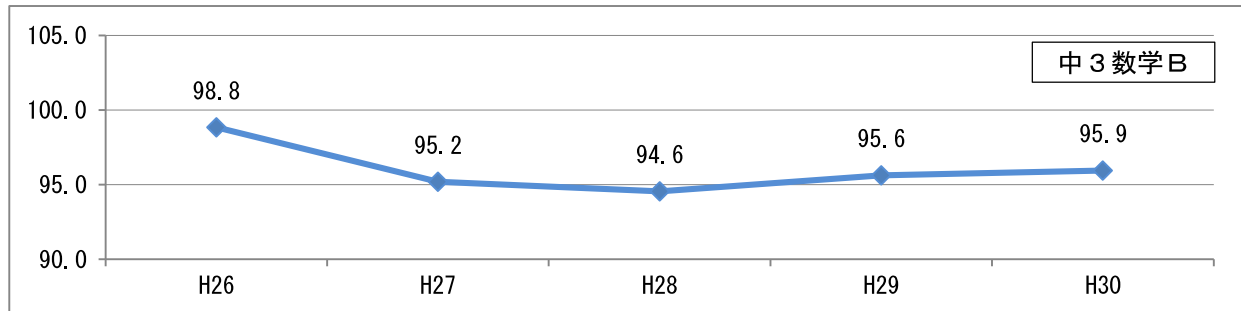
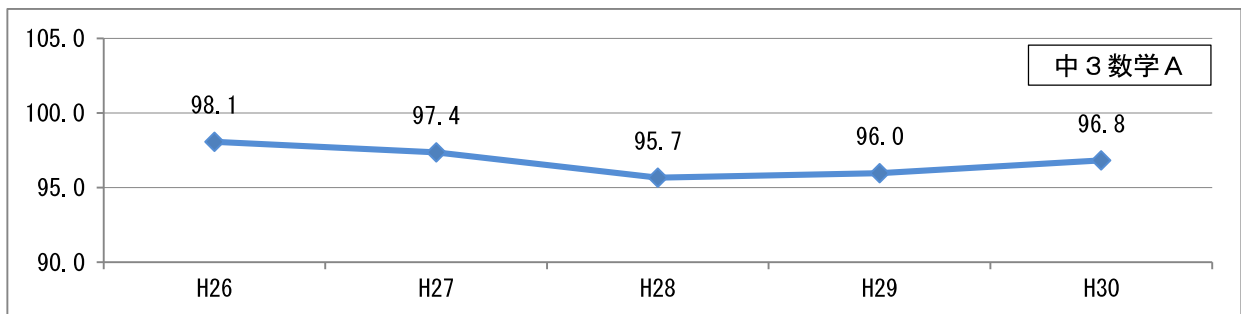
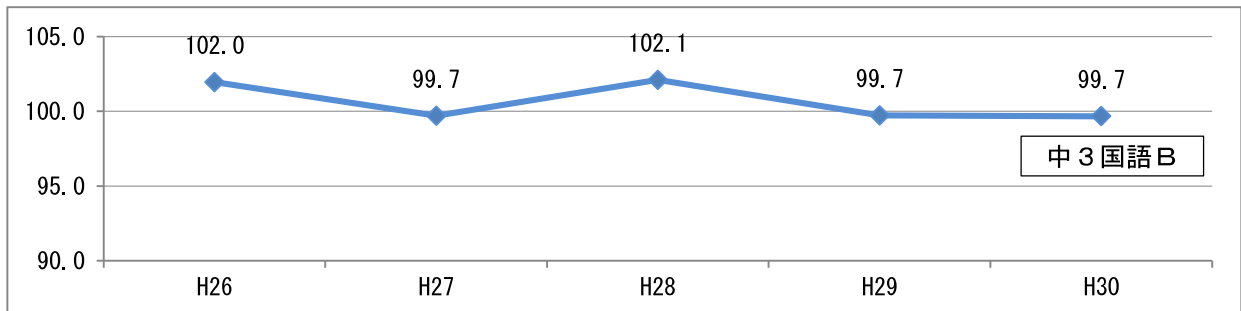
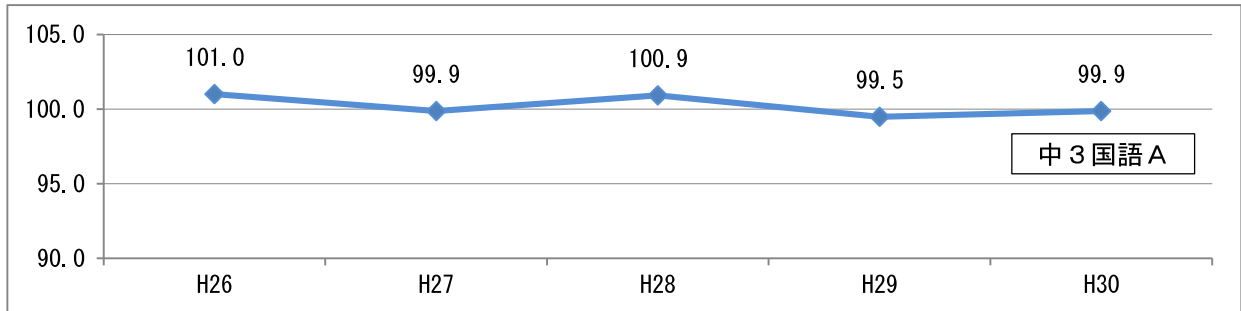


出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」
 ※ 国語A、算数A：主として「知識」に関する問題
 ※ 国語B、算数B：主として「活用」に関する問題

- 国語A・国語Bともに、全国平均並みである。国語AについてはH30年度は全国を下回った。
- 算数A・算数Bは、全国平均を下回って推移している。

8. 学力の状況（2）（中学3年生）

「全国学力・学習状況調査」平均正答率
 （全国の平均正答率を100としたときの本県の値）



出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

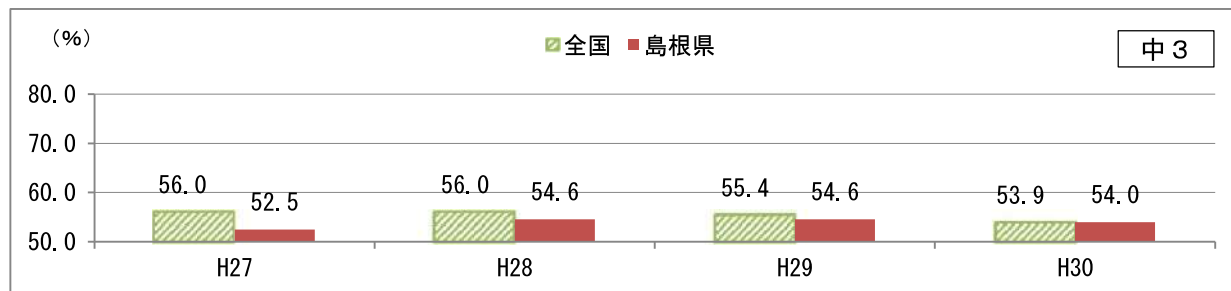
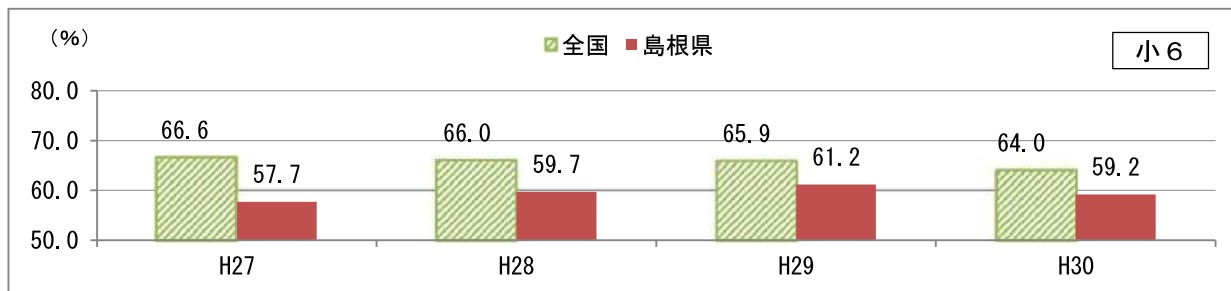
※ 国語A、数学A：主として「知識」に関する問題

※ 国語B、数学B：主として「活用」に関する問題

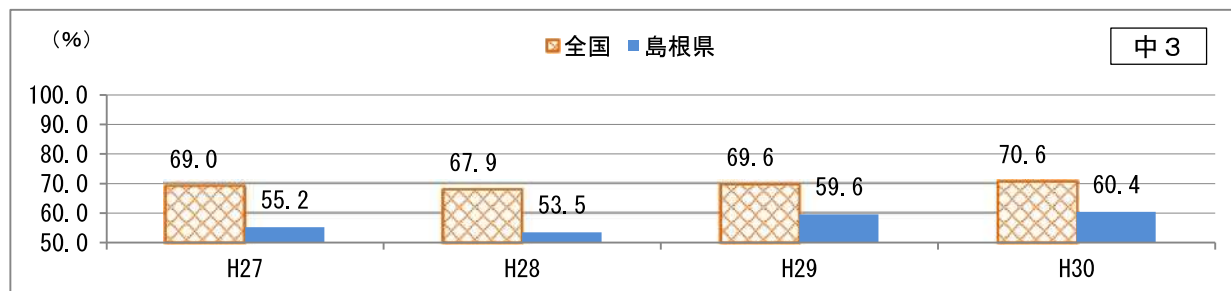
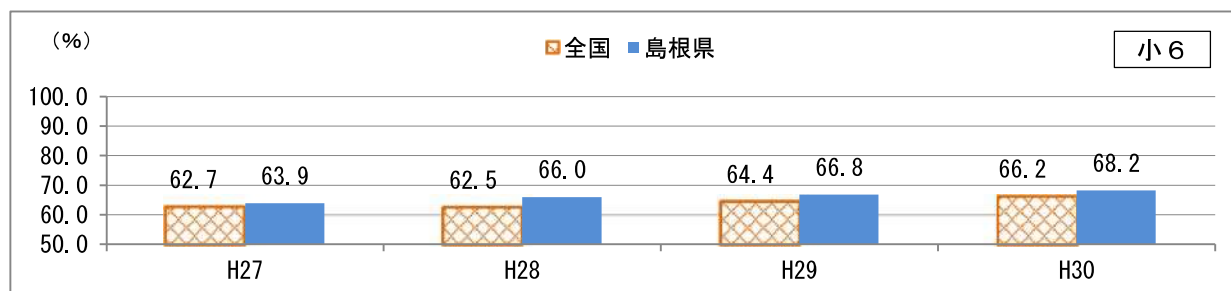
- 国語A・国語Bは、全国平均並みで推移している。
- 数学A・数学Bは、全国平均を下回って推移している。

9. 学習意欲・学習習慣の状況

「算数・数学の勉強は好きだ」と回答した児童生徒の割合



「学校の授業時間以外に1日1時間以上勉強をする」と回答した児童生徒の割合



出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

- 「算数・数学の勉強は好きだ」と回答した児童生徒の割合は、小学6年生では全国平均を下回る状況が続いている。中学3年生は全国平均並で推移している。
- 「学校の授業時間以外に1日1時間以上勉強する」小学6年生の割合は、全国平均を上回っているが、中学3年生の割合は全国平均を下回る状況が続いている。

10. 進学・就職の状況

各年5月1日現在

〔中学校卒業生（国立・公立・私立合計）の高等学校等進学率〕

（単位：％）

区 分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
島根県	98.9	99.0	99.0	99.1	98.8	98.5	99.1	99.1	98.9	98.9
全 国	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8

〔全日制・定時制高等学校卒業生（国立・公立・私立合計）の状況〕

（単位：％）

区 分		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
大学等進学者	島根県	47.5	49.6	47.2	47.0	46.0	47.1	46.3	47.1	45.8	46.7
	（全国）	(53.9)	(54.3)	(53.9)	(53.5)	(53.2)	(53.8)	(54.5)	(54.7)	(54.7)	(54.7)
専修学校等進学者	島根県	23.8	24.9	26.2	27.9	27.2	27.5	27.2	26.5	26.7	24.6
	（全国）	(21.6)	(23.0)	(23.1)	(23.5)	(23.7)	(23.1)	(22.5)	(22.3)	(22.1)	(22.0)
就職者	島根県	23.8	20.1	22.1	21.4	22.0	21.9	23.2	22.7	23.1	23.5
	（全国）	(18.2)	(15.8)	(16.3)	(16.8)	(17.0)	(17.5)	(17.8)	(17.9)	(17.8)	(17.6)
一時的な仕事に就いた者	島根県	0.5	0.4	0.4	0.2	0.6	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2
	（全国）	(1.3)	(1.5)	(1.4)	(1.3)	(1.3)	(1.1)	(0.9)	(0.8)	(0.7)	(0.7)
その他	島根県	4.4	5.0	4.1	3.6	4.2	3.1	3.0	3.5	4.0	4.9
	（全国）	(5.1)	(5.6)	(5.4)	(4.9)	(5.0)	(4.6)	(4.4)	(4.3)	(4.7)	(5.0)

〔全日制・定時制高等学校卒業生（国立・公立・私立合計）の県内就職率〕

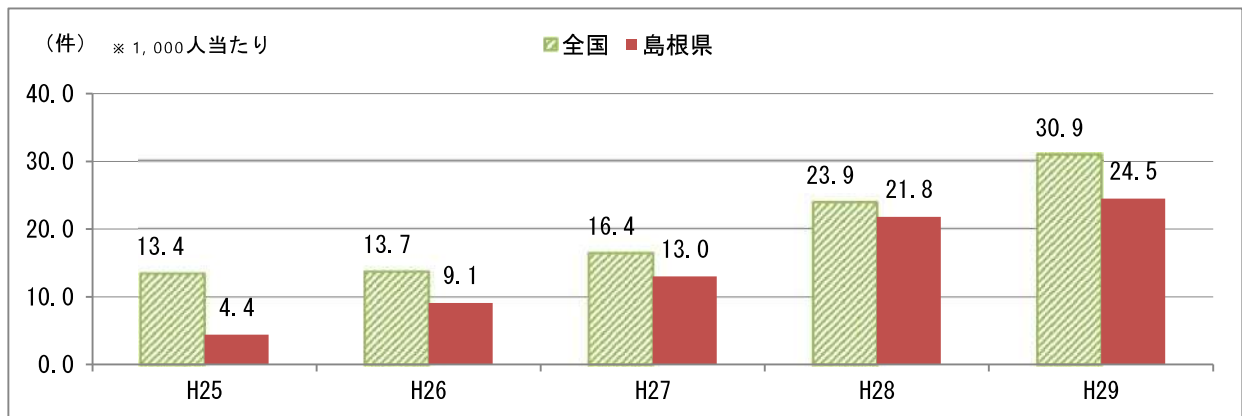
（単位：％）

区 分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
島根県	63.1	68.0	72.7	74.5	75.0	74.6	74.5	73.8	75.3	72.2
全 国	78.1	80.4	81.0	81.4	82.0	82.0	81.3	81.0	81.0	81.0

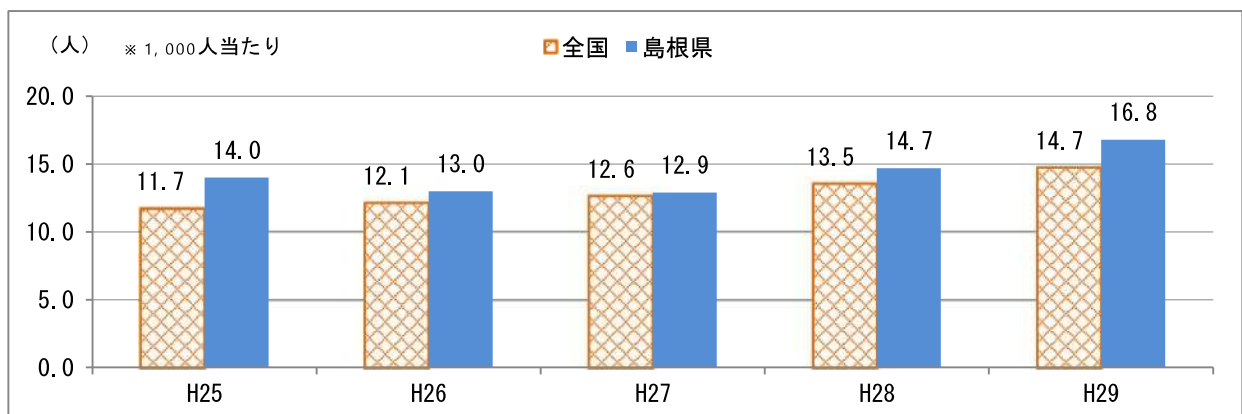
- 中卒者の高等学校等進学率は全国並み。
- 高卒者の大学等進学率は全国平均を下回る。
- 高卒者の就職率は全国平均を上回る。県内就職率は全国平均を下回るが、近年はほぼ横ばいである。

11. いじめ・不登校の状況

いじめの認知件数（小・中・高等・特別支援学校）



不登校児童生徒数（小・中学校）



出典：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

- いじめの認知件数は全国平均を下回る。
- 不登校児童生徒数は全国平均を上回る。

12. 就学援助の状況

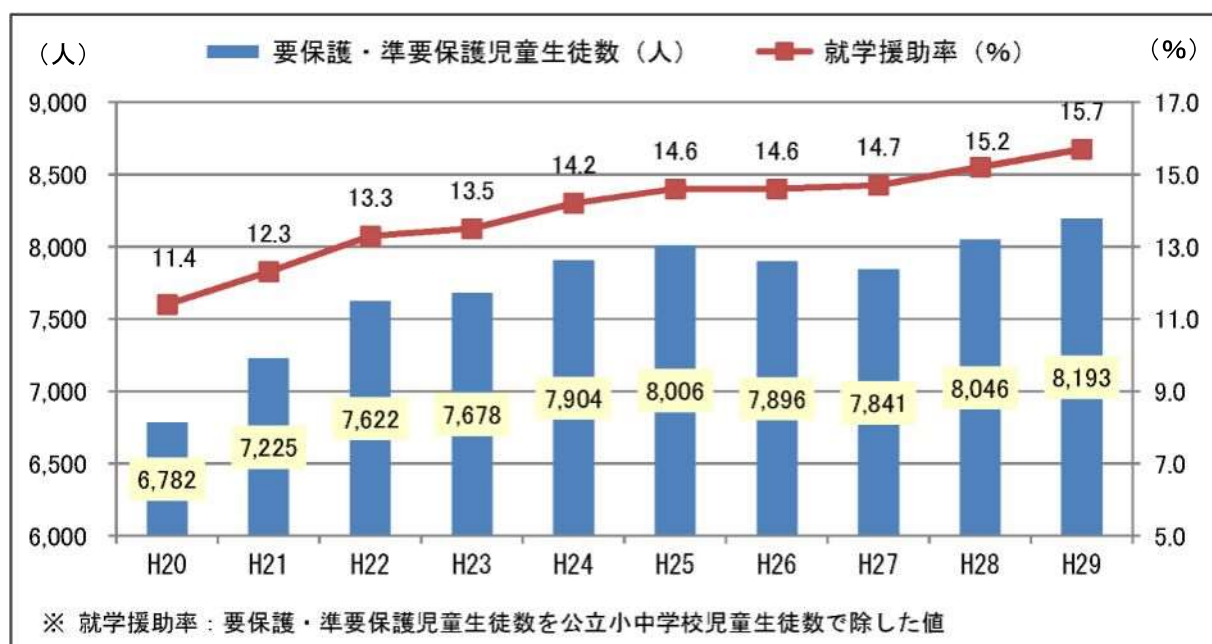
○ 要保護・準要保護児童生徒数の推移

[単位:人]

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
要保護児童生徒数	252	268	355	381	384	405	399	382	366	364
準要保護児童生徒数	6,530	6,957	7,267	7,297	7,520	7,601	7,497	7,459	7,680	7,829
合計	6,782	7,225	7,622	7,678	7,904	8,006	7,896	7,841	8,046	8,193

※ 要保護児童生徒：生活保護法に規定する要保護者の数

※ 準要保護児童生徒：要保護児童生徒に準ずる程度に困窮している者として市町村教育委員会がそれぞれの基準に基づき認定した数



- 就学援助を受けている児童生徒の数は、近年、増加傾向にある。
- 就学援助率は、年々増加を続けている。

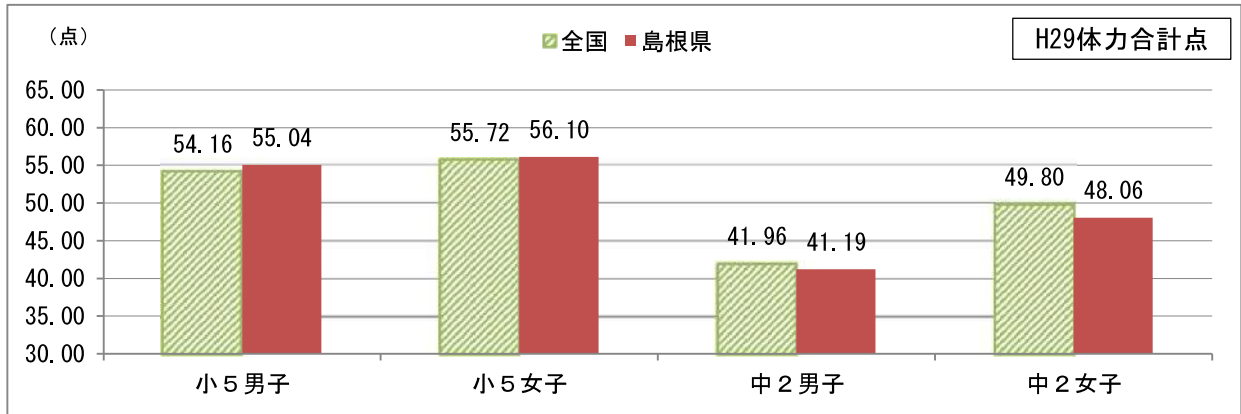
○ 高校生等奨学給付金の状況 (国公立高等学校)

	H26	H27	H28	H29
受給者数(人)	519	1,099	1,620	1,540
受給者の割合(%)	10.4	10.9	10.8	10.2

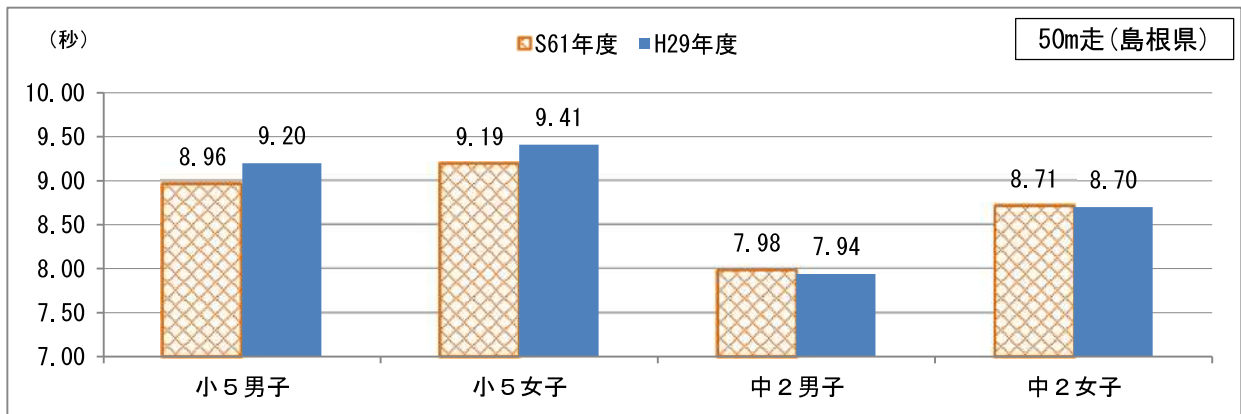
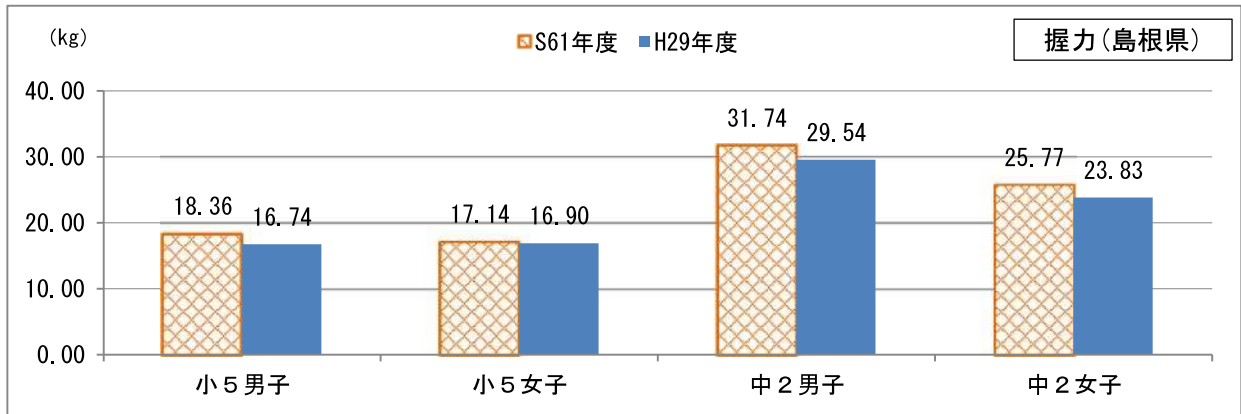
※ 学年進行による実施のため、H26は第1学年、H27は第1,2学年のみが対象

- 授業料以外の教育費の負担軽減を図るため、住民税非課税世帯を対象に定額を給付。
- 受給者数及び受給者の割合は減少傾向にある。

13. 体力・運動能力の状況



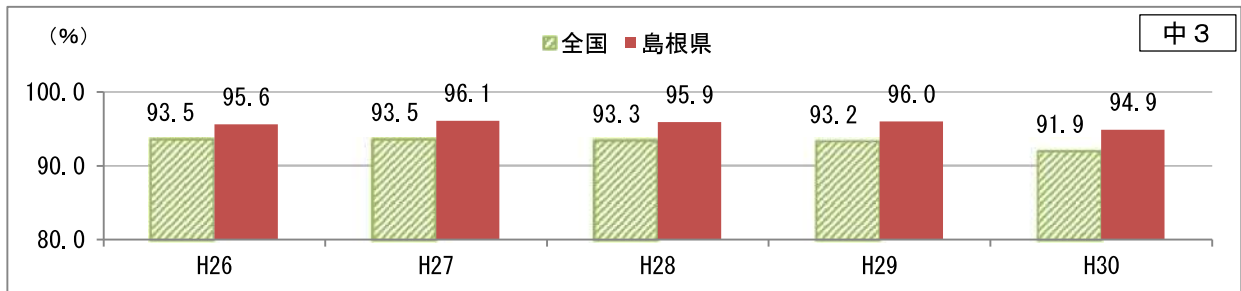
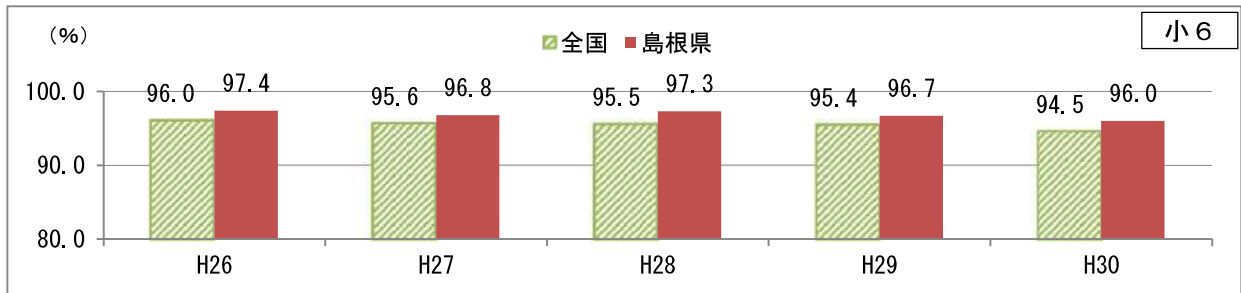
出典：スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」



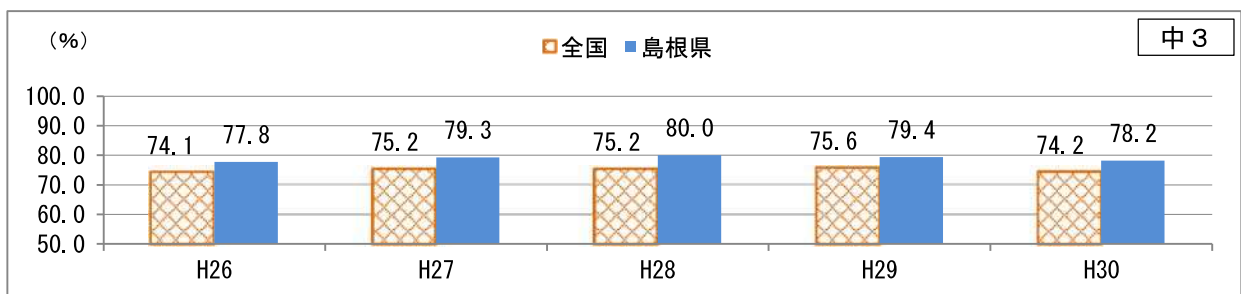
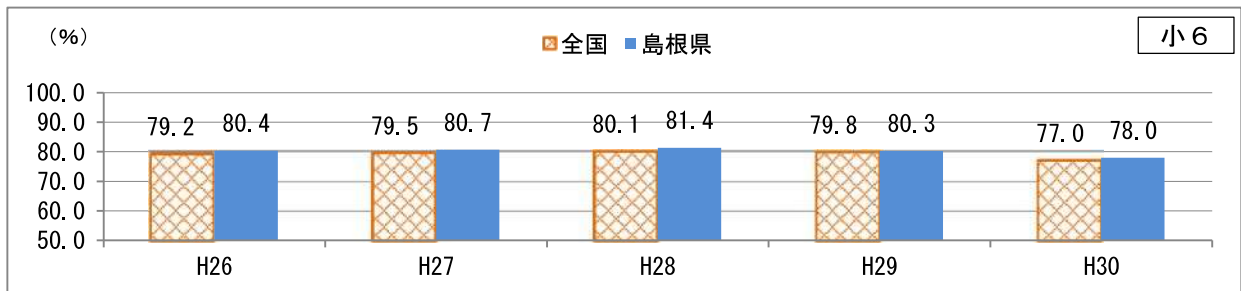
- 体力合計点は、小学校では全国平均点より高く、中学校では下回っており、その傾向は昨年度同様である。
- 種目別では、昨年度より数値の高くなったものや全国平均を超えているものも多いが、筋力・筋持久力、柔軟性などが課題と言える。
- 一方、過去と比較してみると、本県の体力値ピークであった昭和61年度に比べ、全体的にどの学年もまだ及ばない状況が続いている。

14. 生活習慣の状況

「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合



「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒の割合

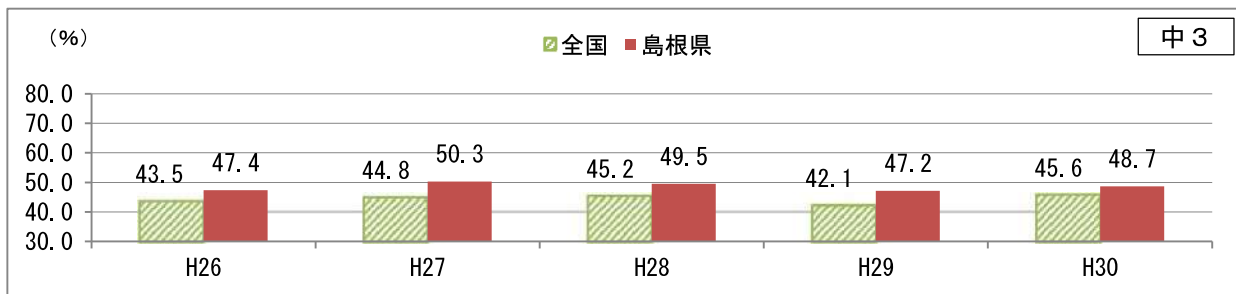
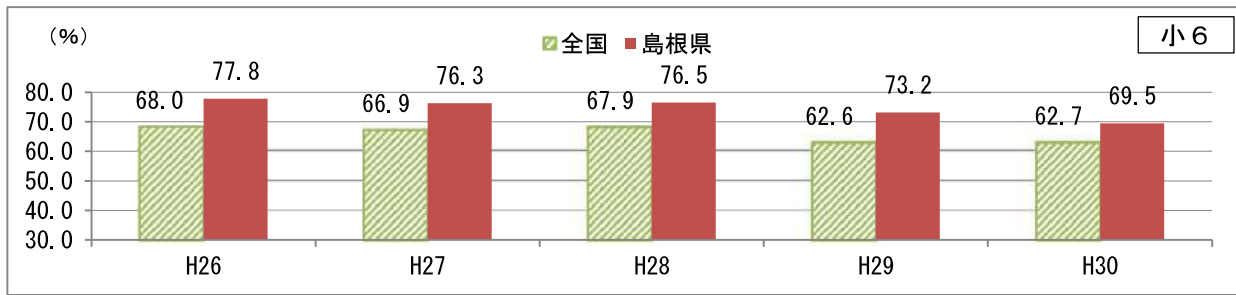


出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

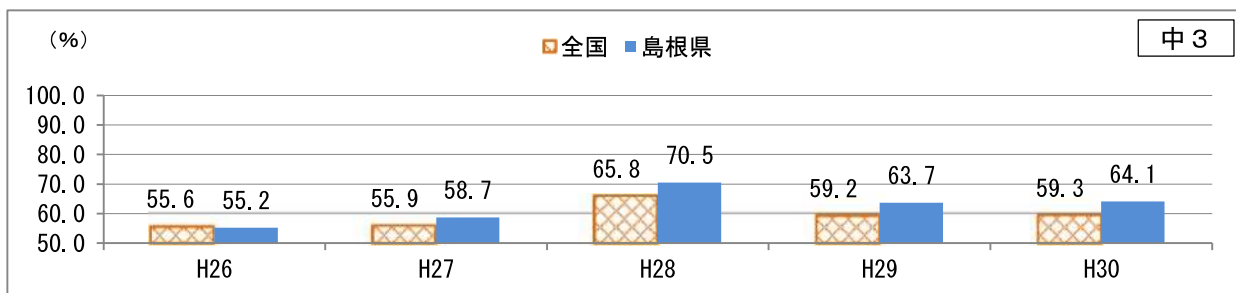
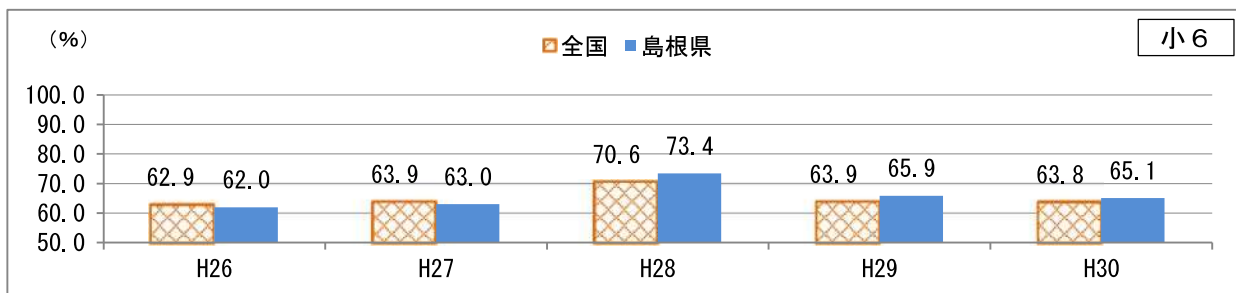
- 「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合は、全国的に見て横ばいあるいは減少傾向にある。また、同一集団の経年比較をすると、学年が上がるにつれて低くなっている。
- 一般的に、高学年になるほど就寝時刻が遅くなり睡眠時間が短くなる。起床してから登校するまでの時間の長短やその過ごし方が朝食を食べるかどうかに影響していると考えられる。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、小学6年生は全国並で推移し、中学3年生は全国を上回って推移している。

15. 子どもと地域との関わりの状況

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合



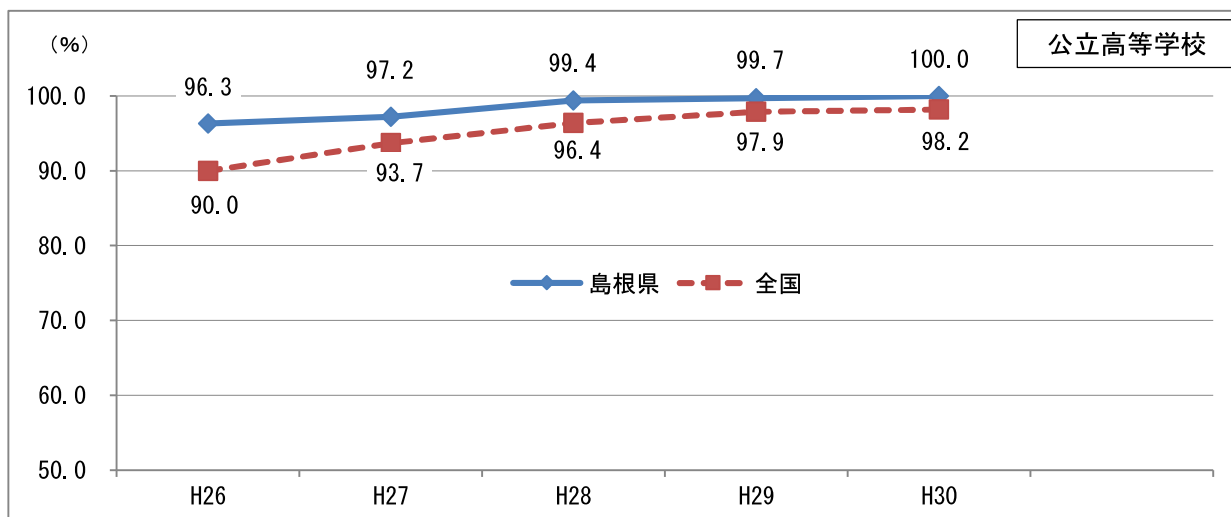
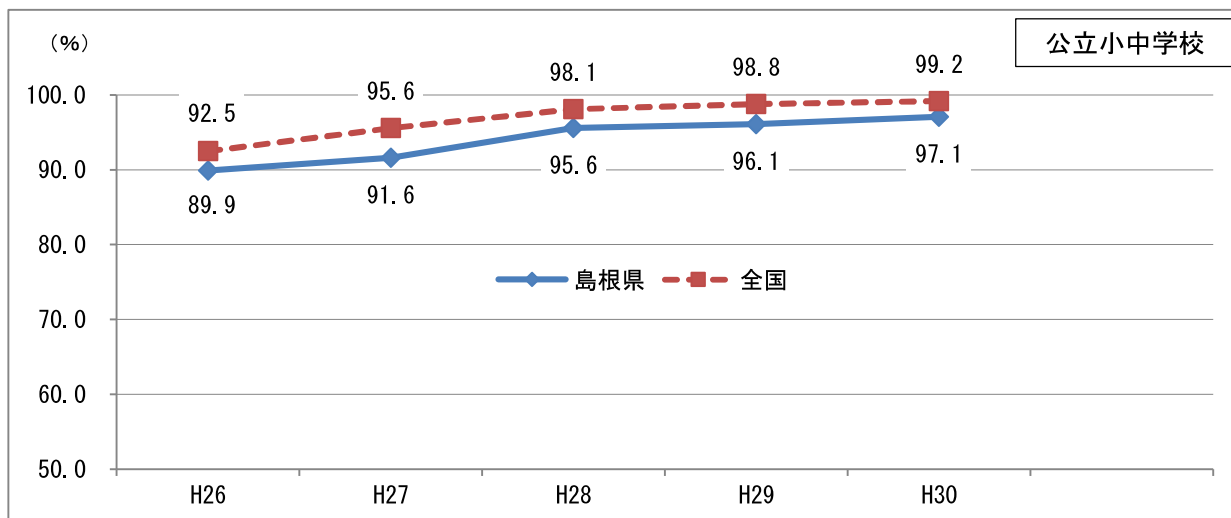
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合



出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、小学6年生・中学3年生ともに、全国平均を上回って推移している。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒は、小学6年生ではH28年度から、中学3年生ではH27年度から全国平均を上回るようになった。

16. 学校施設耐震化の状況



出典：文部科学省「公立学校施設の耐震改修状況調査」

- 公立小中学校施設の耐震化率は全国平均を下回って推移。
- 公立高等学校施設の耐震化率は平成30年度に100%を達成。

17. 社会教育の状況

※ 下記の数値は各年度末の実績数

- ふるさと教育を実施している公立小中学校の割合

区分	H26	H27	H28	H29	H30
ふるさと教育の実施割合（単位：％）	100	100	100	100	100

- 家庭教育支援事業（親学プログラム・親学ファシリテーター活用）の実施状況

区分	H26	H27	H28	H29
親学プログラム研修回数（単位：回）	170	235	220	184
研修参加者数（単位：人）	4,890	6,266	5,935	4,523

- 親学ファシリテーター数

（単位：人）

区分	H26	H27	H28	H29
親学ファシリテーター数（単位：人）	361	440	528	620

- 放課後支援事業（放課後子ども教室）実施状況

区分	H26	H27	H28	H29
放課後子ども教室（単位：小学校区）	149	150	154	148

- 土曜日の教育支援の実施状況

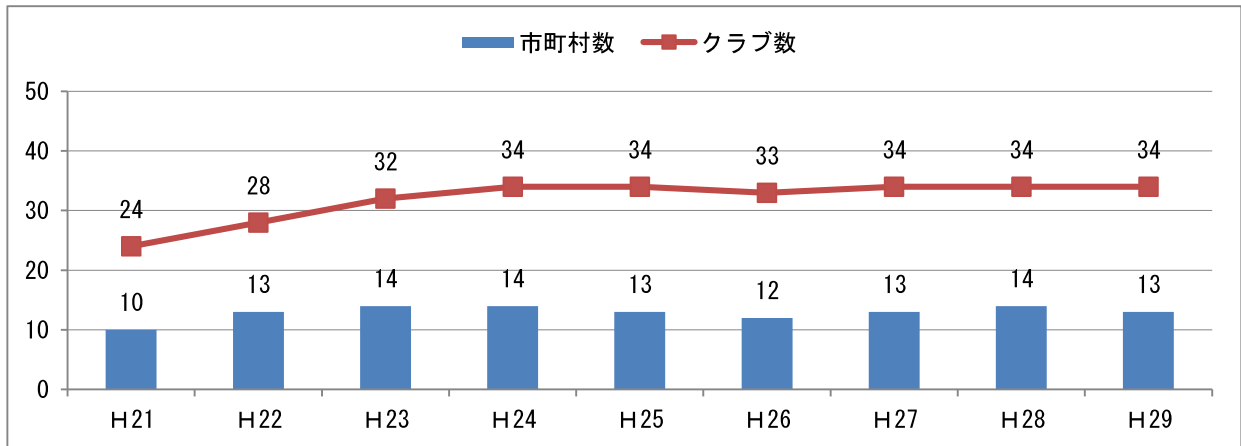
区分	H26	H27	H28	H29
実施箇所数（単位：箇所）	8	28	27	32
実施市町村数（単位：市町村）	4	4	5	5

※ H30年度から事業名称を「外部人材を活用した教育支援」に変更

- ふるさと教育を実施している公立小中学校の割合は100%で推移（小中学校全ての学年・学級で年間35時間以上のふるさと教育を実施）
- 親学プログラム研修回数は200回前後で推移（研修1回平均参加者：25～28人）
- 親学ファシリテーター数は累計数（各年度は80～90人増で推移）
- 放課後支援事業の放課後子ども教室は148小学校区（H29）で実施され、実施率は72.9%（全小学校区数：203）
- 土曜日の教育支援は実施数が近年30箇所程度であり、実施市町村数も5市町村程度で推移

18. スポーツの状況

総合型地域スポーツクラブ数・設立市町村数



〔国民体育大会派遣選手数〕

(単位：人)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
冬季大会	22	20	18	16	18	13	16	13	16
本大会	303	318	234	273	286	271	257	287	291
合計	325	338	252	289	304	284	273	300	307

〔国民体育大会入賞種目数〕

(単位：種目)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
本大会	31	29	25	20	23	24	26	25	31

- 総合型地域スポーツクラブの数は近年横ばいだが、既存のクラブでも、自主財源が乏しく関わる人材が不足しているなど、ソフト・ハード両面において運営に苦慮しているところが多い。
- 国民体育大会では、平成29年度は総合成績38位と23年ぶりの30位台という成績を残したが、総合成績は、特に団体種目での上位入賞数に左右される面がある。

19. 文化財の状況

国・県指定文化財の状況

種 別	国指定		県指定	計	
有形文化財	97	(5)	214	311	(5)
建造物	24	(3)	29	53	(3)
絵画	10		36	46	
彫刻	22		42	64	
工芸品	19	(2)	49	68	(2)
書跡	3		15	18	
典籍	0		2	2	
古文書	8		25	33	
考古資料	11		16	27	
歴史史料	0		0	0	
無形文化財	1	(0)	5	6	(0)
工芸技術	1		5	6	
芸能	0		0	0	
民俗文化財	17	(0)	49	66	(0)
有形民俗文化財	10		16	26	
無形民俗文化財	7		33	40	
記念物	102	(4)	103	205	(4)
史跡	55		59	114	
名勝	6		2	8	
天然記念物	31	(4)	38	69	(4)
史跡及び名勝	3		0	3	
名勝及び天然記念物	6		2	8	
天然記念物及び名勝	1		2	3	
その他	5	(0)	0	5	(0)
重要伝統的建造物群保存地区	3			3	
重要文化的景観	1			1	
選定保存技術	1			1	
合 計	222	(9)	371	593	(9)

※ 平成30年10月31日現在
 ※ 国保有指定文化財は含まない
 ※ () は国宝・特別天然記念物の数で内数

○ 国・県指定文化財件数は、国指定222件、県指定371件の合計593件